

言語景観に関する社会言語学的アプローチの有効性

尹 亭仁／彭 国躍

本研究グループの今年度の韓国語関連の研究活動は、学内の研究会である「色彩と文化—言語景観と外国語教育」で、今まで集めた日本での韓国語の写真进行分类・分析し、「日本における韓国語の言語景観の現状—韓国語教育への活用性と問題点」というタイトルで発表した(2019年8月6日・火)(取り上げた問題のある韓国語の言語景観については下の図1・2・3・4参照)。来年度はこの内容をより充実させ、論文としてまとめて、投稿する予定である。一方で、7月に台北での言語景観の調査をしてきた。今まで集めた日本での言語景観の資料、来年3月実施予定の北京での言語景観の調査にソウルでの言語景観の調査資料を加え、「漢字文化圏の言語景観の比較」を試みている。

中国大陸の言語景観については、次の2つのテーマで研究活動を行っていた。1つは、これまでの研究課題の延長線上の作業として、1920～40年代の上海の歴史的言語景観を考察し、主にその多言語使用(中国語・英語・ドイツ語・日本語・ロシア語)の類型について分析を行ったもので、もう1つは、今後の新しい研究テーマ「横浜中華街の言語景観」に関する基礎資料の整理として、主に中華街の形成に関する歴史資料の調査と図像の収集を行ったものである。1つ目のテーマについては、来年度の前半ころに論文の執筆を完成させ、2つ目のテーマについては、来年度から本格的に中華街の言語景観の図像写真のデータ収集に着手する計画である。



図1 젠코지 사(寺)



図2 젠코지 절 ← 図1・図2：表記上の不一致



図3 流す：* 흘리다



図4 次発：* 차발편 ← 図3・図4：誤訳